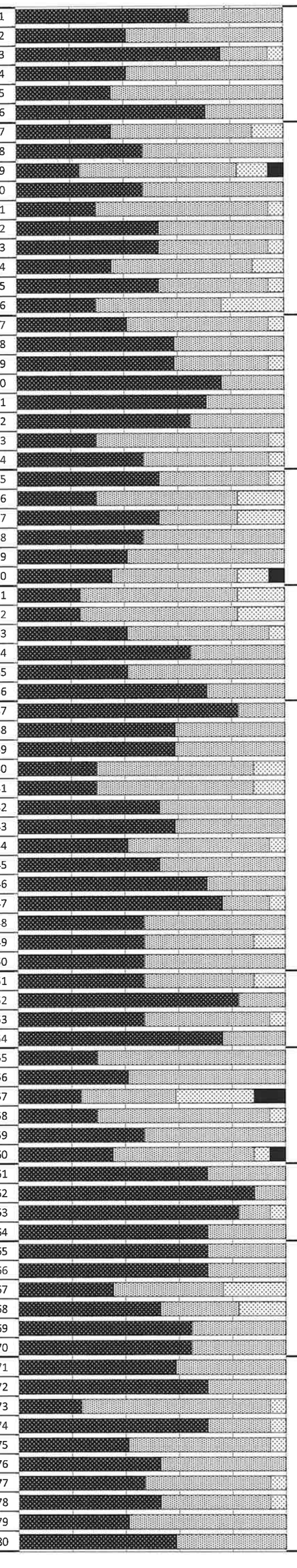
令和5年度　学校評価集計（職員用）

■あてはまる　▨ややあてはまる　▨ややあてはまらない　■あてはまらない

0%　20%　40%　60%　80%　100%

Ⅰ	教育目標・教育計画	1　本校の教育活動について，教職員で日常的によく話し合っている。	1
		2　各年度の教育計画の作成に当たって，教職員でよく話し合っている。	2
		3　本校の教育活動には，他の学校にない，地域の子どもや保護者などのニーズに合った特色がある。	3
		4　教育課程の編成に当たって，学習指導要領の趣旨が生かされている。	4
		5　教育活動全般にわたって評価を行い，次年度の計画に生かしている。	5
		6　学校は，教育活動全般について，子どもや保護者の願いによく応えている。	6
Ⅱ	教科指導	7　年間の学習指導計画について，各学年・各教科でよく話し合い，情報交換を行っている。	7
		8　各教科の指導内容について，基礎・基本を明確にし，教材の精選・工夫を行っている。	8
		9　少人数指導の導入など，指導方法の工夫・改善に努めている。	9
		10　教科横断的な視点で，総合的な学習の時間に取り組んでいる。	10
		11　思考力を重視した問題解決的な学習を行っている。	11
		12　児童の実態等を踏まえ，参加体験型の学習を行うなど指導方法の工夫・改善を行っている。	12
		13　グループ学習を行うなど，学習形態の工夫・改善を行っている。	13
		14　学習が遅れがちな児童への対策を，全校的課題として取り組んでいる。	14
		15　学習意欲の高い児童に対する学習指導を，個に応じた視点で工夫して行っている。（例　発展的学習への対応など）	15
		16　観点別評価など評価の在り方について，教職員間で話し合う機会がよくある。	16
Ⅲ	生徒指導・進路指導	17　カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。	17
		18　いじめなどの問題が起きた場合，組織的に対応できる体制が整っている。	18
		19　様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心がけている。	19
		20　教育相談体制が整備されており，児童は担任以外の教員とも相談することができている。	20
		21　生徒指導において，家庭との緊密な連携ができている。	21
		22　生徒指導において，関係諸機関との緊密な連携ができている。	22
		23　児童が将来の進路や生き方について考える機会を多く設けている。	23
		24　児童が生き生きと，学ぶことができる学級づくりのために，学校全体で取り組んでいる。	24
Ⅳ	道徳・特活・しおさいタイム	25　学校行事が児童にとって魅力あるものとなるよう，新しい学校生活様式に沿って工夫・改善を行っている。	25
		26　児童会活動が自主的に行われるよう，学校全体での支援を行っている。	26
		27　クラブ活動の活性化に取り組んでいる。	27
		28　児童が生命の大切さをや社会のルールを身に付けることができるよう，年間指導計画に基づき，道徳の時間を中心に道徳教育を継続的に行っている。	28
		29　道徳教育の目標達成のため，道徳教育と各教科での指導との関連を図っている。	29
		30　教育活動において，奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている。	30
Ⅴ	学校人権・同和教育・特殊教育他	31　人権尊重に関する様々な課題や指導方法について，全教職員で話し合っている。	31
		32　学校人権教育において，参加・体験型の学習内容・方法を多く取り入れ，感性を高める指導を行っている。	32
		33　障害者理解を深め，合理的配慮やノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができる ようエ夫している。	33
		34　男女共同参画社会を目指し，男女平等を念頭に置いた指導を行っている。	34
		35　環境，国際理解，福祉など今日的課題を教育活動に積極的に取り入れている。	35
		36　体罰やセクハラ防止をはじめ，全ての教育活動において，人権尊重の姿勢に基づいた指導や活動がされている。	36
Ⅵ	経営組織	37　校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。	37
		38　学校運営に，校長のリーダーシップが発揮されている。	38
		39　学校運営に，教職員の意見が反映されている。	39
		40　教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ，教職員が意欲的に取り組める環境にある。	40
		41　各分掌間や各学年間の連携が円滑に行われ，有機的に機能している。	41
		42　職員会議や各種会議が，情報交換と課題検討の場として有効に位置づけられている。	42
		43　会議の結果が教育活動や学校運営に生かされている。	43
		44　教職員間の相互理解が十分になされ，信頼関係に基づいて教育活動を行っている。	44
		45　日々の教育活動における問題意識や悩みについて，気軽に語し合えるような職場の人間関係ができている。	45
		46　本校においては，教職員の服務規律への自覚が高い。	46
		47　事故，事件，災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう，役割分担が明確化されている。	47
		48　本校では，子どもの生活の場として，ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている。	48
		49　本校では，教職員が勤務時間を意識して働いている。	49
		50　本校では，教職員の教育活動へのモラール(意欲)が高い。	50
Ⅶ	施設・設備	51　施設・設備の拡充が長期的視点に立って計画されている。	51
		52　施設・設備について，目常的に点検や管理が行われている。	52
		53　各教科の備品や教材・教具が適正に配置され，十分に活用されている。	53
		54　ICT機器等が授業で活用されている。	54
Ⅷ	研究・修養	55　教育課題の解決のため，校内研修組織が確立し，計画的に研修が実施されている。	55
		56　校内研修は，社会の変化に即した課題も取り入れるなど，教育実践に役立つような内容となっている。	56
		57　学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。	57
		58　教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。	58
		59　県総合教育センター等が主催する研修に計画的に参加する体制が整っている。	59
		60　研修・研究に参加した成果を，他の教職員に伝える機会や方法が整っている。	60
Ⅸ	情報管理	61　公文書の収受・発送・保管に関する管理が適切である。	61
		62　学校から保護者あてに文書を発送するに当たって，校長が決裁するシステムが適切に生かされている。	62
		63　個人情報保護の観点から，個人情報に関する管理システムが確立している。	63
		64　教育活動に必要な情報を積極的に収集し，教職員・児童・保護者へ積極的に伝えて いる。	64
Ⅹ	地域との連携	65　保護者や地域の人々と接する機会を，可能な限り多く持っている。	65
		66　教職員はPTA活動に，可能な限り参加している。	66
		67　近隣の中学校などとの校種間連携の機会を設け，教育活動全般に生かしている。	67
		68　「特別支援学級と通常の学級との交流」や「特別支援学校」との交流の機会を積極的に設けている。	68
		69　来客や電話等の応対が適切である。	69
		70　児童が，社会教育の活動に可能な限り積極的に参加できるよう，配慮している。	70
※	その他	71　児童は，学校で安心して生活できている。	71
		72　児童は，学校に来るのが楽しそうである。	72
		73　児童にとってわかりやすい授業ができている。	73
		74　児童のなやみ・不安に，親身になって取り組んでいる。	74
		75　児童の服装等，身なりの指導をしている。	75
		76　きまり・マナーを身に付ける指導をしている。	76
		77　清掃・美化について常に意識付け，指導もしている。	77
		78　挨拶・返事をきちんとする指導を日常的に行っている。	78
		79　児童の家庭での生活の様子を把握している。	79
		80　感染症対策を行い，保健衛生指導を日常的に行っている。	80